

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

調査成果報告会

令和5年度調査

令和5年度に実施した発掘調査を振り返る調査成果報告会。
今回の報告会では、長岡京跡や井ノ内稻荷塚古墳の遺構、各時代の
様々な出土遺物など、多くの成果があった調査から紹介します。

令和6年9月14日

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター



令和 5 年度 発掘調査事業の主な成果

付表-1 発掘調査地一覧表

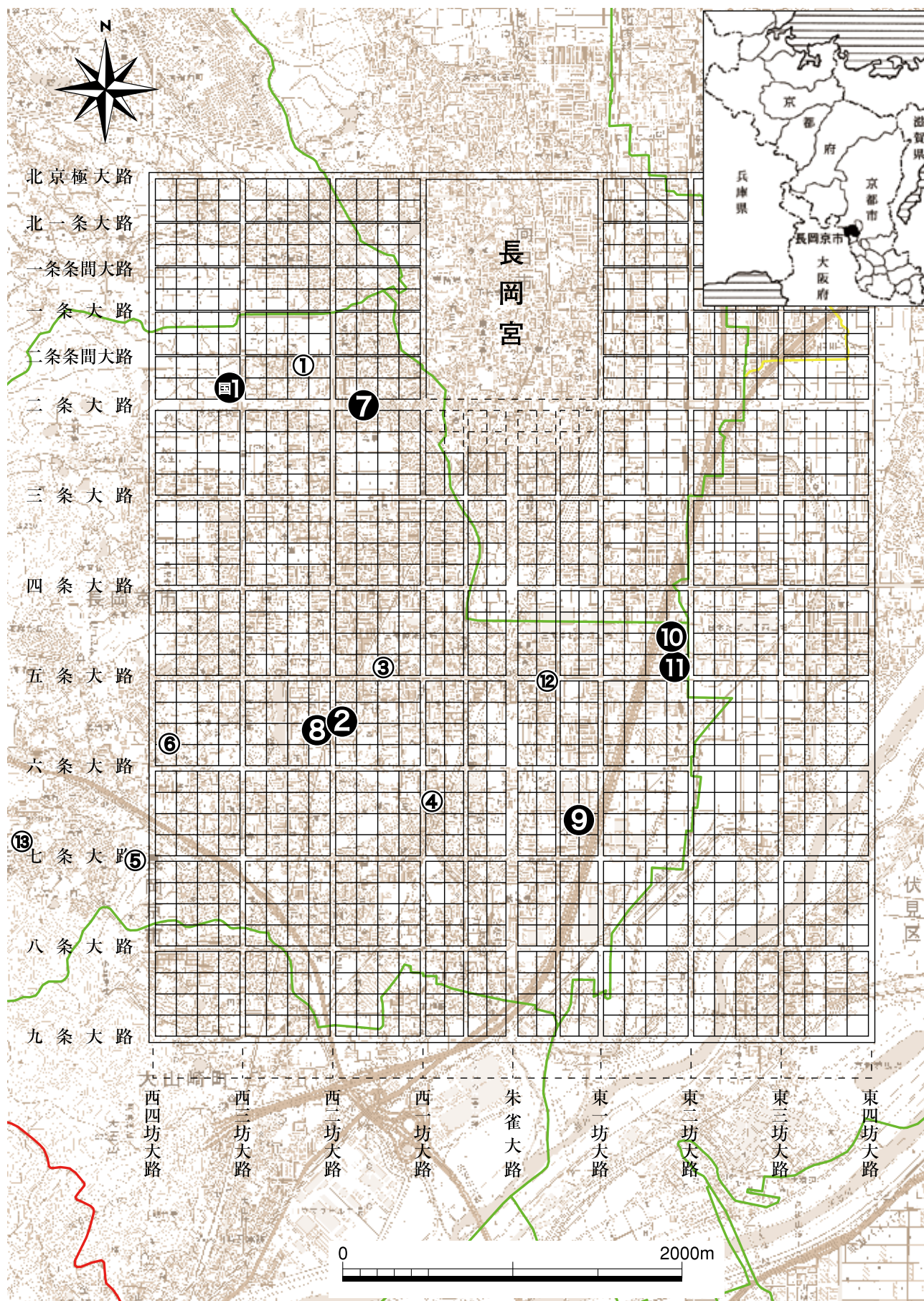
番号	調査次数	重複遺跡	住 所	調査期間	面積
1	長岡京跡 右京第 1276 次	上里遺跡	長岡京市井ノ内上東ノ口 8 他	2023 年 4 月 10 日 ～ 5 月 12 日	149㎡
2	右京第 1277 次	開田遺跡	長岡京市開田三丁目地内	2023 年 6 月 5 日 ～ 9 月 27 日	674㎡
3	右京第 1278 次		長岡京市開田一丁目 107-1 の 一部	2023 年 6 月 6 日 ～ 6 月 23 日	139㎡
4	右京第 1279 次	神足遺跡	長岡京市神足二丁目 703 番 1 他	2023 年 7 月 3 日 ～ 8 月 8 日	194㎡
5	右京第 1280 次	(長岡京跡関連遺跡)	長岡京市下海印寺西山田・西 明寺他	2023 年 7 月 11 日 ～ 7 月 14 日	47㎡
6	右京第 1281 次	下海印寺遺跡	長岡京市奥海印寺東山 1-1 他	2023 年 9 月 26 日 ～ 10 月 24 日	408㎡
7	右京第 1287 次	今里遺跡	長岡京市今里更ノ町 10 番の 一部他	2024 年 1 月 29 日 ～ 3 月 5 日	219㎡
8	右京第 1288 次	開田城ノ内遺跡	長岡京市天神一丁目 204	2024 年 2 月 5 日 ～ 3 月 19 日	205㎡
9	左京第 672 次	雲宮遺跡	長岡京市神足木寺町 25	2023 年 4 月 3 日 ～ 5 月 17 日	310㎡
10	左京第 673 次	馬場遺跡	長岡京市馬場餅田 8 他	2023 年 4 月 17 日 ～ 10 月 20 日	2,514㎡
11	左京第 680 次		長岡京市馬場六ノ坪 25 他	2023 年 6 月 12 日 ～ 9 月 1 日	660㎡
12	左京第 682 次		長岡京市神足掛越 9-7 他	2023 年 8 月 8 日 ～ 8 月 23 日	69㎡
13	金原寺跡第 4 次		長岡京市金ヶ原金原寺 2 番地	2023 年 9 月 25 日 ～ 10 月 19 日	92㎡
国 1	右京第 1284 次	井ノ内稲荷塚古墳、井ノ 内遺跡、井ノ内古墳群	長岡京市井ノ内小西地内	2023 年 12 月 11 日 ～ 2024 年 2 月 27 日	93㎡

* 太字・網掛けで示した調査の成果を掲載しています。

調査でわかった主な時代



※ 掲載調査資料の右上・左上に示したマークは、調査で特に成果があった時代



- ・図中の番号は、付表-1「発掘調査地一覧表」に対応する
- ・白抜き番号の発掘調査は、次項以降に成果の概要を掲載した

▲ 発掘調査地位置図

② 長岡京跡右京第 1277 次調査

調査期間 2023（令和5）年6月5日～9月27日

調査地 長岡京市開田三丁目地内

調査遺跡 長岡京跡右京六条二坊十四町、開田遺跡

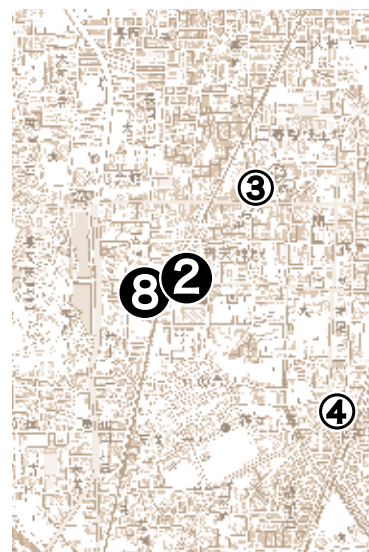
調査面積 674m²

担当者 大高 義寛

周辺地形 緩扇状地 **地表面標高** 21.0 m

調査成果（弥生・奈良・長岡京・平安・中世）

弥生時代の区画溝・方形周溝墓、奈良時代の溝、長岡京の六条条間小路南側溝、平安時代の落ち込み・溝、中世の耕作溝など数多くの遺構を検出しました。特に弥生時代の区画溝は、後期の土器が多数出土しており、調査区西側に展開する開田城ノ内遺跡の東を画するものと考えられます。



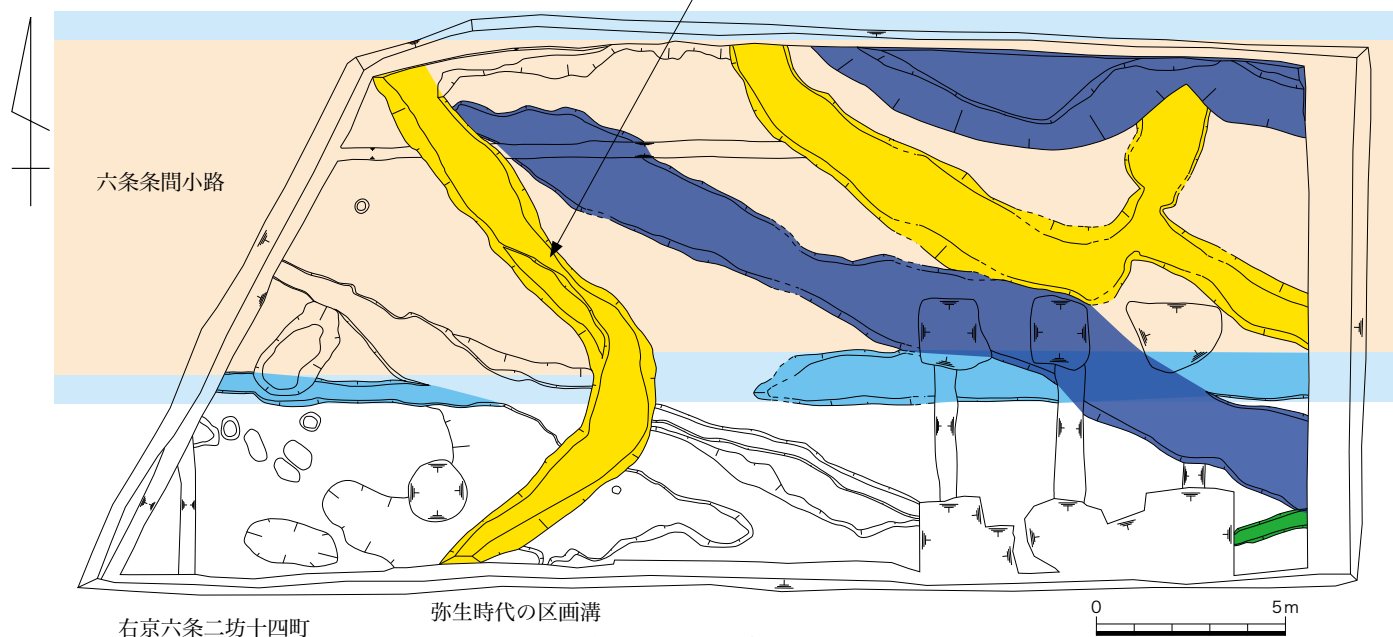
▲ 調査地位置図



第2調査区全景（東から）



弥生時代の溝 土器出土状況（南東から）



第2調査区検出遺構図

▲ 調査成果図・写真

⑦ 長岡京跡右京第 1287 次調査

調査期間 2024（令和 6）年 1 月 29 日～ 3 月 5 日

調査地 長岡京市今里更ノ町 10 番の一部他

調査遺跡 長岡京跡右京三条二坊九町、今里遺跡

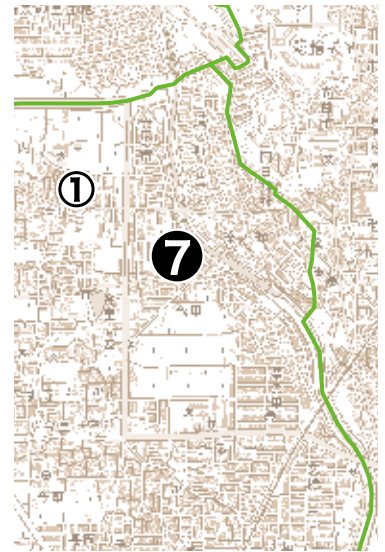
調査面積 219m²

担当者 原 秀樹

周辺地形 氾濫原 I 地表面標高 28.4 m

調査成果（古墳・長岡京）

長岡京期の隅円方形の柱穴と宅地内溝を検出しました。柱穴は柱痕跡と柱抜き取り穴を確認しましたが、大半が調査地外のため建物の規模は不明です。宅地内溝は幅 2 m で、溝の南辺を杭と板で護岸し、溝内には橋脚の柱が 3 本残っていました。遺物は、木製の容器が注目されます。



▲ 調査地位置図



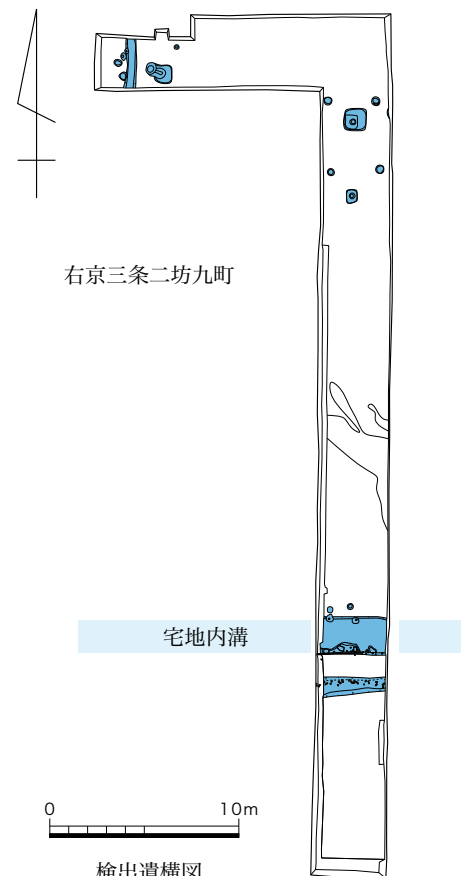
調査区全景（北東から）



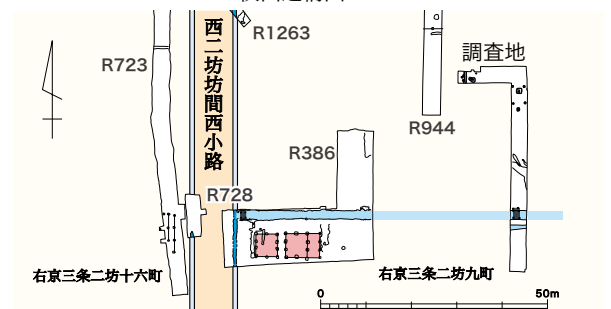
宅地内溝 護岸施設・橋脚（北東から）



木製品出土状況（北から）



検出遺構図



右京三条二坊九町の遺構配置検図

▲ 調査成果図・写真

⑧ 長岡京跡右京第 1288 次調査

調査期間 2024（令和6）年2月5日～3月19日

調査地 長岡京市天神一丁目 204

調査遺跡 長岡京跡右京六条三坊三町、開田城ノ内遺跡

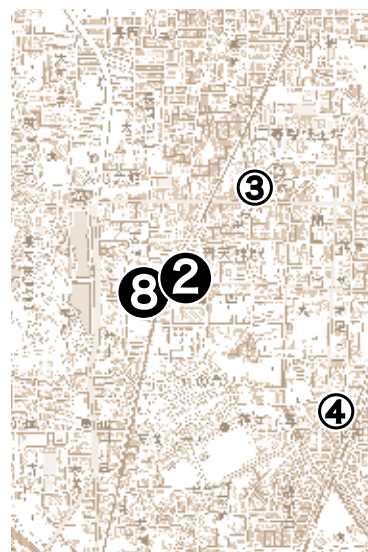
調査面積 205m²

担当者 猿向 敏一

周辺地形 緩扇状地 地表面標高 23.2 m

調査成果（長岡京・平安・中世）

調査地周辺では、過去の調査成果から底付きの大型掘立柱建物群や「離宮系」軒瓦の出土から、小路を埋め立てて四町域を一体として利用した、京内離宮跡の可能性が指摘されていました。今回の調査では、これを補強する長岡京期の掘立柱建物柱群を検出しました。



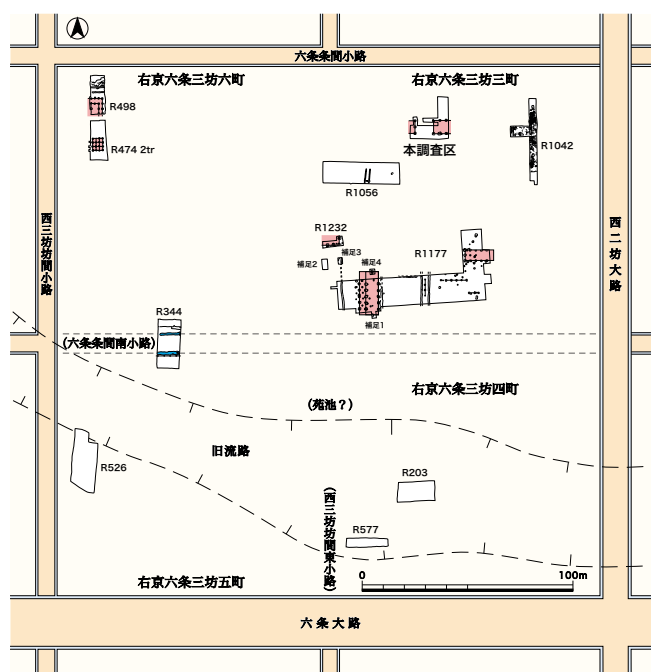
▲ 調査地位置図



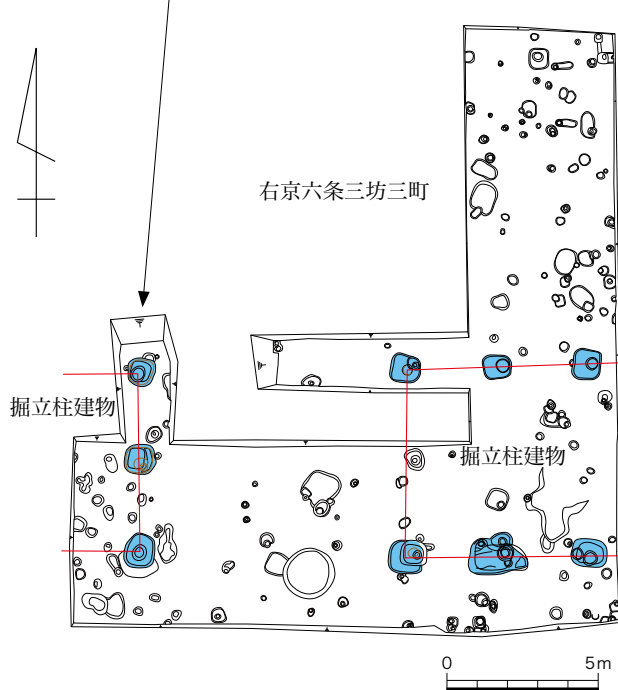
東西調査区全景（北西から）



大型建物の柱穴（北東から）



右京六条三坊三～六町の遺構配置図



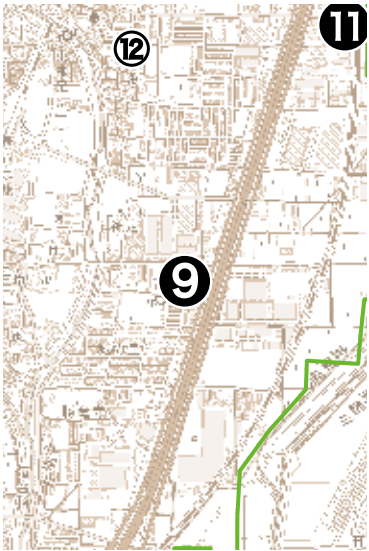
検出遺構図

▲ 調査成果図・写真

⑨
 長岡京跡左京第 672 次調査

調査期間 2023（令和 5）年 4 月 3 日～ 5 月 17 日
 調査地 長岡京市神足木寺町 25
 調査遺跡 長岡京跡左京七条一坊十一町、雲宮遺跡
 調査面積 310㎡
 担当者 原 秀樹
 周辺地形 後背低地 地表面標高 11.0 m
 調査成果（古墳・長岡京・中世）

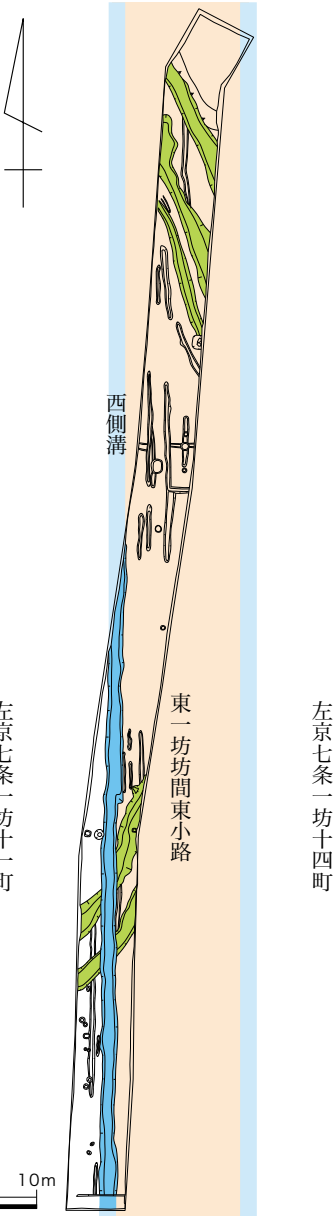
古墳時代の溝は、北と南側で方位を異にする斜行溝です。長岡京期は、東一坊坊間東小路西側溝と小穴を検出しました。西側溝の出土遺物には、谷田瓦窯群で製作された長岡宮式軒平瓦が含まれていました。調査区内で途切れる浅く細い南北溝は、中世の耕作溝と考えられます。



▲ 調査地位置図



調査区全景（南から）



検出遺構図

▲ 調査成果図・写真

⑩ 長岡京跡左京第 673 次調査

調査期間 2023（令和 5）年 4 月 17 日～10 月 20 日

調査地 長岡京市馬場餅田 8 他

調査遺跡 長岡京跡左京五条二坊十四町、馬場遺跡

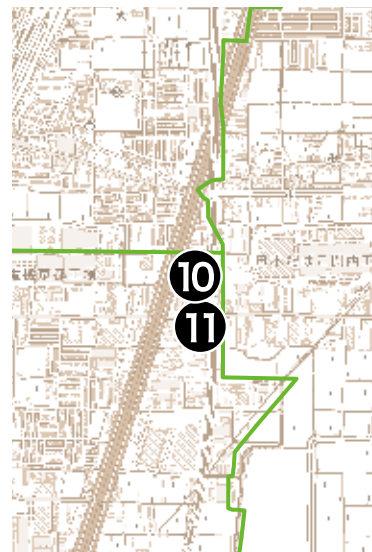
調査面積 2,514m²

担当者 山下 研

周辺地形 小畑川のつくった扇状地 **地表面標高** 12.5 m

調査成果（古墳・長岡京・中世）

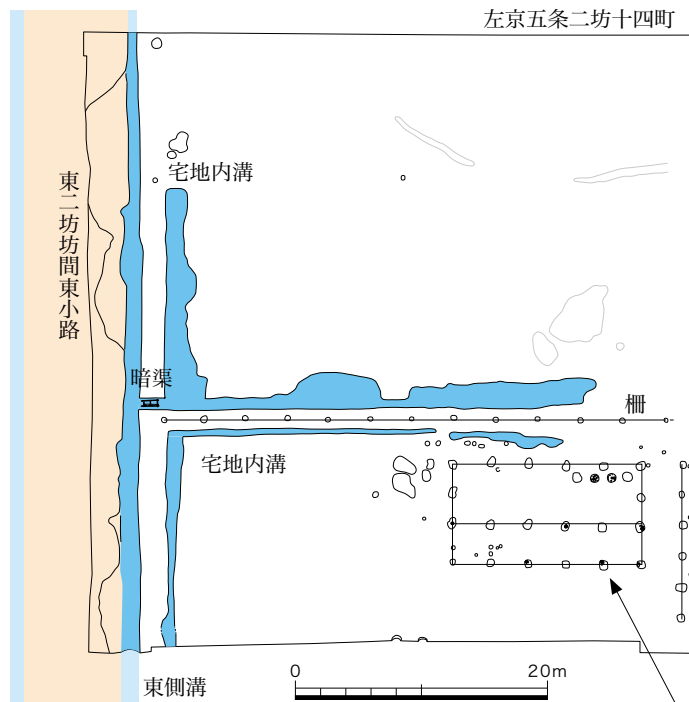
古墳時代以前の流路、古墳時代前期頃の土坑・小穴、長岡京の東二坊坊間東小路東側溝と暗渠遺構・左京五条二坊十四町の宅地内溝・建物・柵・小穴、中世の溝などを検出しました。建物の柱穴や甕据え付け穴からは、緑釉陶器甕や文字線刻漆器碗が出土しています。東西方向の柵は、十四町域を南北に二分する位置に当たります。それに加え、建物の構造や配置、特殊な遺物の存在などから、少なくとも十四町域の宅地南半は一体的に利用されたと考えられます。



▲ 調査地位置図



調査区全景（南西から）



検出遺構図（主に長岡京期）



建物柱穴と甕据え付け穴（南東から）



緑釉陶器・漆器出土状況（南から）



漆器碗「神五」出土状況（南から）

▲ 調査成果図・写真

⑪ 長岡京跡左京第 680 次調査

調査期間 2023（令和5）年6月12日～9月1日

調査地 長岡京市馬場六ノ坪25他

調査遺跡 長岡京跡左京五条二坊十三町

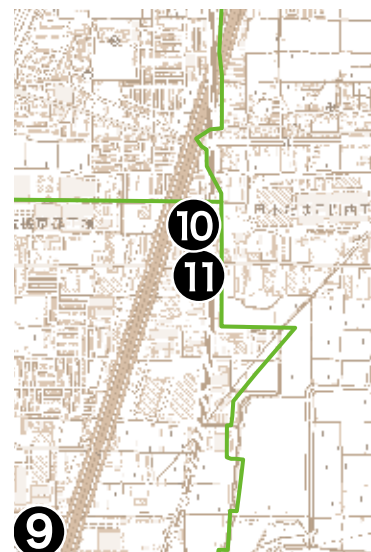
調査面積 660m²

担当者 原 秀樹

周辺地形 小畑川のつくった扇状地 **地表面標高** 12.8 m

調査成果（長岡京）

長岡京跡の五条大路北側溝と、左京五条二坊十三町の溝・小穴などを検出しました。宅地内の溝は、東西方向に等間隔に並ぶ細い溝で、溝内から須恵器壺が出土しました。長岡京期より下層では、流木を含む砂礫堆積の自然流路を検出しました。



▲ 調査地位置図

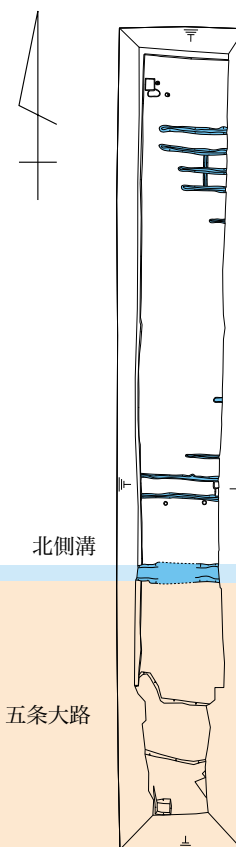
左京五条二坊十三町



調査区全景（南東から）



五条大路北側溝（東から）



左京六条二坊十六町

0 20m

検出遺構図

▲ 調査成果図・写真

① 長岡京跡右京第 1284 次調査

調査期間 2023（令和5）年12月11日～2024（令和6）2月27日

調査地 長岡京市井ノ内小西地内

調査遺跡 長岡京跡右京二条四坊四町、井ノ内稲荷塚古墳
井ノ内遺跡、井ノ内古墳群調査面積 93m²

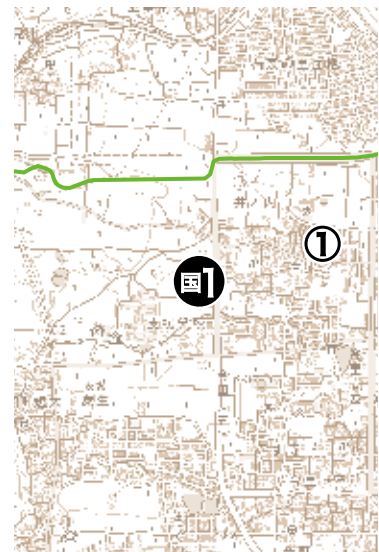
担当者 中島 皆夫

周辺地形 低位段丘Ⅰ 地表面標高 42.5 m前後

調査成果（古墳・中世）

国史跡乙訓古墳群の1基である井ノ内稲荷塚古墳の範囲確認を目的として、前方部の前面で実施しました。調査では、前方部前面に浅い周溝が巡り、周溝が部分的に掘り残され陸橋状となることを確認しました。

また、鎌倉時代頃の輸入磁器を埋納した土坑なども確認しました。



▲ 調査地位置図



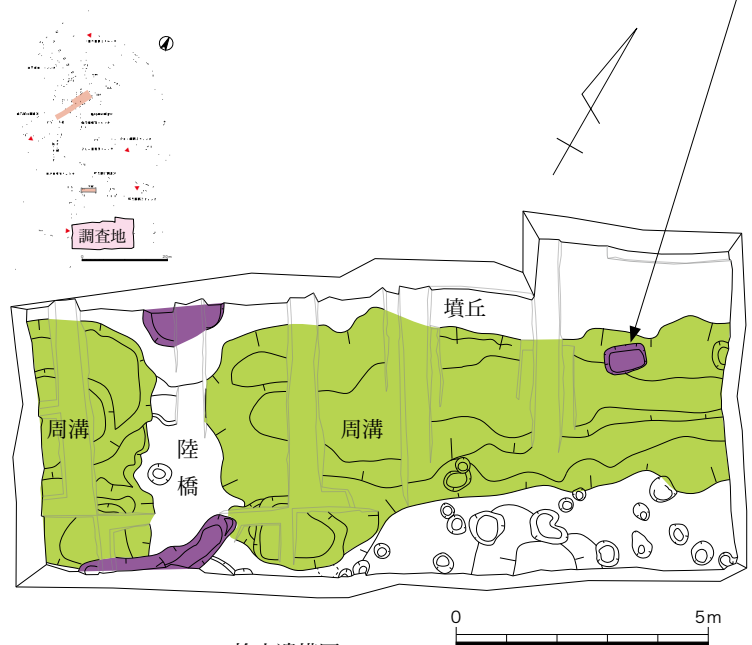
調査区全景（東から）



輸入磁器を埋納した中世の土坑（南東から）



陸橋と周溝（南東から）



検出遺構図

▲ 調査成果図・写真

メモ

